レイ大高島通信

レイカディア大学同窓会高島支部

第８３号　令和３年５月１日

発行責任者　　清水　良秋

◎「新型コロナウイルス」３度目の緊急事態宣言！

新型コロナで欧州初の感染爆発が起きたイタリアでは、２６日から大半の地域で規制緩和が始まる。変異株による第３波が押し寄せ、都市封鎖に踏み切ってから１ヶ月余り。ワクチン接種も徐々に進み、恐る恐る再出発。一方で、３度目の緊急事態宣言に入った日本。一足先を行く欧州の経験から学ぶことが出来なかったのか。初日、東京の人の流れはいか程に・・・。

◎支部総会やむをえぬ書面決

４月１３日（火）令和３年の支部総会を予定していましたが、新型コロナでやむをえず書面決議とし、反対意見もなく事業計画並びに収支予算が承認されました。

尚、役員体制及び各行事担当は次の通りです。

□支部長　清水　良秋
□副支部長　白井　與士則
　　柴嵜　久子
□会　計　桒原　良太
□監　査　木津　紀一郎
　　大石　博子
□ＨＰ担当　湯浅　清明
□広報担当　白井・桒原・柴嵜
□剪定担当　大藤・高島・西澤
□GG担当　川尻・古谷
□研修担当　足立・三矢

以上、よろしくお願いします。

◎レイカディア大学同窓会本部の定期総会が開催されます。

日時：五月二十六日（水）
　　午後一時３０分から
場所：草津校大教室
記念講演：副知事の中條氏です
演題：「滋賀県の高齢者を取り巻く状況と介護予防について」

なお、毎年総会で長寿の慶祝がありますが、代表者１名のみで開催されます。

○米寿慶祝

竹下彰子さん（２３期生活科学卒）次回の高島通信で掲載予定

◎防災レポート２

今回は減災のための自助について考えてみましょう。

身体能力は壮年時代をピークにして衰え始め、年齢を重ねるに従ってその速度が増して衰えると言われています。日頃からその速度にブレーキをかける生活に心掛けましょう。大好きな炬燵とテレビに少々のおいとまをして動きましょう！高齢者の身体能力の目安は「２０㎝～３０㎝の台に腰かけた状態から何も頼らず立ち上がって歩き出せる」体力を保持したいと思います。

強い身体能力を保持することは、新型コロナに対抗できる躰作りにもつながります。さー今から立ち上がりましょう。

［３７期防災士　川尻氏提供］

2021.01.25

同窓会高島支部会報原稿

秋冬の心

ネットに於いて、江戸時代末期の学者、佐藤一斉の言葉に対する書き込みに感銘を受けました。

「富貴は譬えば則ち春夏なり。人の心をして蕩せしむ。貧賤は譬えば則ち秋冬なり。人の心をして粛ならしむ。故に人富貴に於ては則ちその志を溺らし、貧賤に於ては則ちその志を堅うす。」佐藤一斉言志録４１条より

訳：金持ちや身分の高いのは、例えれば春夏のようなもので、人の心を緩慢にさせる。貧乏や身分の低いのは、例えれば秋冬のようなもので、人の心を引き締めさせるものだ。だから富貴は志を薄弱にさせ、貧賤は志を強固にするのだ。

私の思いを書きます。今の時代、唯一我が国が戦争に巻き込まれず平和を謳歌しています。たいへん幸せなことです。反面、昭和時代の厳しく世界に追いつこうと努力した結果の果実をだらだらと食いつぶしている時代のように思います。その平穏と豊かさの中で、政治も国民の心も緩慢になっているのではないでしょうか。「競争」の時代から「優しさ」が重要になってきたように感じます。人に優しい社会、環境に優しい生活環境等々。しかし、世界を見た時、「競争」はより大規模に、より急速に展開されています。平穏と豊かさのるつぼの中で惰眠を貪ってきた結果、世界の競争から落ちこぼれそうになっているのが現在の日本ではないかと思います。また、逆境に対する抵抗力が低下して来ているように思います。人も国もヤワになったのが平穏と豊かさの結果とすれば、これは大変皮肉です。佐藤一斎は、今の私たちに、「それでいいのか？」と叱咤激励しているように思います。

今、通常国会が審議されています。日本は世界レベルの問題（新型コロナウイルス、温暖化、食料不足等）に対して**秋冬の心**を持って、世界のリーダーとして対処していきたいものです。

西澤幸夫　2021.01.25

◇編集後記◇

レイ大高島通信に会員皆様方からの原稿を募集します。今回は地区幹事の西澤さんから提供頂きました。